

会議名称	県立中井やまゆり園改革アドバイザー会議
開催日時	令和7年11月17日（月）13時30分から16時40分
開催場所	西庁舎7階702会議室
出席者	佐藤議長、渡部副議長、小西委員、隅田委員、野崎委員、高原委員、中西委員、名倉委員、羽生委員、上野委員
問合せ先	障害サービス課 支援改革グループ
会議概要	以下のとおり

【議題1 福祉的な検証の進め方】

- これまでの検証からすると1回の会議で2事例の検証が限界のため、今後の開催日程・回数は検討する必要がある。
- 重要な検証だと思うので、園内の検証体制は、多くの職員が園内で検証できるよう進めてもらいたい。

【議題2 個別事例の検証】

- 医療を取り巻く環境は常に変遷しているが、園では、無関係のまま進んでしまっていた。また、園内で基礎疾患が適切に引き継がれてこなかったことも治療が遅れた原因であり、医務課に任せっきりの状態が根本にあったのではないか。
- 度重なる骨折等がある中で、課題は丁寧な医療と最小限の行動制限である。安静期間や通院時期について統一感がなく、治療後のことを考えられていない。
- 利用者の生活を充実させることで問題の解決を図るという視点が抜けていたのではないか。
- 施設に入所しても再び地域で暮らしていけるように、社会性を身に付けられるような支援をしなければいけなかった。
- 身体拘束をする目的があり、薬を処方した目的もあったにもかかわらず、その目的が共有されていなかった。その中で、安全安心を優先した対応がとられていた。
- 身体拘束は大きな問題として、日常のことにしない対策が大事である。また、やむを得ず身体拘束を行う場合、その妥当性を身内で判断するのではなく、検証する仕組みが必要。
- 長い時間を経て、身体拘束が当たり前になっており、今も他の利用者に対して同じような身体拘束が実施されており、支援の根幹の部分が変わっていないことが懸念される。
- こうした検証・議論が行われていることを園に持ち帰って、検証メンバーの口から、園内に伝えてもらいたい。